

## 網易新聞

## なぜ中国人は猫肉を食べないのだろうか？ 李時珍は私たちに答えを教えてくださいました、そして古代人はすでにそれを味わっています

網易新聞

www.163.com

2022-09-08

10:17:57 来源: 人間史名人录

誰もが知っている通り、中国は「美食大国」であり、空を飛ぶもの、地を走るもの、水の中を泳ぐもの、いずれも美味しい。が、猫肉については、中国人はあまり関心がないようだ。

広東省には「龍虎斗」という、ヘビや猫を主な材料にしたスープ料理があるのだが、広東省の一部の地域で流行しているのみで、絶対多数の人は猫肉を食べたことすらないのではないかと思う。なぜだろう？



中国の「猫モフ (宮本注: ネコをモフモフする遊び)」の歴史

考証によると、ネコが最初に飼い慣らされたのは約**3600**年前だという。当時、古代エジプト人は大量の穀物を蓄えており、これがそれを食べるために多くのげっ歯類(ネズミ)を集め、さらにそのげっ歯類が野良猫を引き寄せて捕食するようになったことから、人々は野良猫とともに暮らしてきたのだ。

ローマ帝国時代には、貨物船がインドとエジプトの間を航行し、エジプトの猫は船上で食べ物を「守り」、インドへ向かった。これにより、中国の猫は西漢時代にシルクロードを通じ中国の大地に持ち込まれたと考える人もいるだろうが、近年の考古学チームは、すでに飼い猫のものと思われる西漢時代以前の骨が発掘されていることを発見しているのだ。

だが、中国におけるネコの具体的起源を研究することにはあまり意味がない。我々の祖先がいつ「猫モフ」に夢中になったのかを調べてみるのはどうだろうか？



正確に言えば、**宋時代**、「人はみなネコで自己満足」していたと言えよう。

南宋時代の『武林旧事』には、宋代の市場には猫小屋や猫の餌売り、猫売りがいて、猫専用の里親サービスもあったと記されている。

大詩人、**陸游**はよく「自分の猫を自慢」する詩を書いている。彼はかつて「猫を贈る」という**3**片の詩を書いたが、その詩には「常に薄荷に酔い、夜ごとに氈漚を占領す」という一節があるのだが、この意味は：「我が家のネコはいつも薄荷の匂いを嗅ぎまわり、私の毛布を占領するのが大好きだ」ということだ。

宋朝の習慣では、人々は一匹のネコを家に持ち帰ることは厳粛で儀式的な事柄とみなしていた。

猫を迎えるときも結婚式と同様に**結納品**を贈らなければならないが、宝石や宝物を贈る必要はなく、猫の前の飼い主に塩を与えたり、小魚を紐に結んで子どもを産んだ雌猫に与えたり

せねばならなかった。その後、縁起の良い「猫迎え日」を選び、猫に婚約書を送り、結納を渡し、その証拠となる猫迎え状を成立させたのだ。

明時代まで、ネコの飼育は熱狂的なものだった。ネコは皇室の愛玩児になり、特別な「おネコ様部屋」

で飼われた。

宮廷内で最初に飼われていたネコはネズミを捕るために飼われていたと言われているが、その当時、殺鼠剤は存在せず、宮廷に保管されていた文書や品物が認識できないほどネズミに噛まれることがよくあり、紫禁城を「守る」ために民間から大量の猫が「徴発」されたのだ。

あっという間に、宮廷内の妃や公主、さらには皇帝までがこの可愛い子らと恋に落ちてしまった。

明朝第 11 代皇帝嘉靖の頃には、彼はネコに夢中になってしまった。彼は宮廷内にネコを飼育するために「猫ちゃんの間」と名付けた特別施設を設けた上にネコに官位まで与え、専従員をつけて奉仕させたのだ。

眉露（メイルー）という名前の獅子猫（長毛で尾の太い猫の一種）の死後、嘉靖帝は金の棺を建立させ、文官に彼が最も愛したネコの追悼文を書くようにと命じている。



袁偉というある文官が、追悼文に「獅子を龍と為す」という四文字（中文は『化獅為龍』です）を使ったが、これを聞いた嘉靖帝が何度も彼を賞賛し、大喜びで、すぐさま彼を『昇格昇給』させ、ネコが埋葬された場所に建てられた記念碑に「獅子を龍と為す」との文字が刻まれたのだ。

清時代にも、ネコブームは衰えることなく続いていた。

清朝の名臣、張志東は大のネコ好きで、家の中で数十匹の猫を飼育、いつも自ら餌をやり、他人には手を出させなかった。

張之洞のいとはかつて手紙の中で、張之洞の猫たちはとても甘やかされて気位が高く、書斎でよく排便や排尿していたが、しかし、張之洞は不潔だとは考えず、自分の手巾を使って糞尿を拭き取り、周囲の人たちにも「ネコたちは無知なので責められないよ」と語ったと述べている。

乾隆帝も 60 年間の治世中に十数匹の御ネコ様を飼っていた。

1744 年、イタリアの使節が乾隆帝にチーターによく似たサーバルキャット（原文は『藪猫』）を贈ったが、乾隆帝はこのサーバルキャットを特に可愛がり、ネコに水を与えやすいように紫檀製の茶碗を注文、また青磁の蓮華様式の暖かい碗を使い猫に与えたという。



なぜ中国人は猫肉を好まないのだろうか？

#### (1) 【動物の中ではネコの地位が高い】

上記記述から、太古の昔から庶民から高官に至るまで、あらゆる人々がネコの「猫奴隷」であり「尻拭き役」になってしまっていたことを知るのには難しくない。つまり、中国人が古代から猫肉を好まない理由もこれである程度説明できよう。

ちょっと想像してみよう。皇帝自身が異常なまでにネコを愛していた（まさにネコっ可愛がり！！ですね：爆）嘉靖帝統治時代に、もし民衆が猫肉を食べたがったとすれば、皇帝は激怒していただろう。

多方で、昔の人は礼儀と互惠性を重視し、「古代の君子は恩に報わねばならない」と考えており、他人から支援を受けたら倍返し（あのドラマの名台詞！）しなければならないと考えていたが、このような関係は他の動物と仲良くする場合にも存在している。





ネコは田んぼや家でネズミを捕らえるだけでなく、人に親しみや温もりを与えてくれるので、礼儀作法をわきまえた君子たちは自分の食事はもちろん、猫に対しても丁寧に接していた。

### (2) 【本草綱目の記載】

中国では猫がとても歓迎されているが、昔は誰も食べなかったのか？

本当は、確かにあった。

有名な「薬聖」李時珍は、その著書『本草綱目』中で、「タヌキ肉は食用に適すが、猫の肉は食用に適さず、よって利用する人は稀だ」と記述している。

李時珍自身が食べたことがあるのか、或いは他人から教えられただけなのかは不明だが、要約すると、彼の見方によると猫肉は不味すぎて料理に適さないので猫肉を食べる人はほとんどいないというのだ。



### (3) 【ペスト危機】

我が国は昔から今まで農業大国だ。特に古代においては、人々の命であれ、戦をする軍隊であれ、食料は最優先事項であり、糧食の保管場所は穀物盗みが得意なネズミの温床となりやすかった。

昔、ネコが好まれた重要な理由は、ネズミを捕まえる技にあった。猫にとって、ネズミは食べ物であり遊び道具でもあったのだ。

したがって、猫肉を1日3食摂取すると、間違いなくペストの蔓延という惨事を招くだろう。最も明確な事例は過去のヨーロッパ人だ。

中国に比べ、古代ヨーロッパ人はネコに対してかなり粗暴な態度をとっていたが、それは彼らの意識の中ではネコは悪魔の化身であり、特に黒ネコは基本的に悪魔と同一物だったからなのだ。

魔の化身であり、特に黒ネコは基本的に悪魔と同一物だったからなのだ。



たとえば、エリザベス 1 世の戴冠式で、当時の英国女王は、天への生贄として猫 1000 匹以上を火中に投げさせている。

英国人に加え、フランス人もネコを虐待するのが好きだった。ルイ 14 世の即位前、フランスには聖ヨハネの日と呼ばれるフェスティバルがあった。毎年この祭日には、パリの市政府広場（プラス・ド・ヴィーユ）で盛大な儀式が行われ、人々は数十匹の猫を科刑場の杭に吊るし、猫が焼き殺されるのを踊りながら祝っていた。

ヨーロッパ人はこれを行い、最後に直接恐ろしい黒死病を引き起こした。これは黒死病がネズミにより広められたからだ。考えてみれば、これだけ多くの猫が焼き殺されたのだから、ネズミたちもヨーロッパ大陸では自由無法に生きていけたはずだ。

しかし、私たち古代人はもっと賢かった。上で「古代の君子は恩に報わねばならない」と述べたが、文の後半部分は「ハタネズミを食べるネコを歓迎する」、つまり、当時の人々は作物を盗むネズミを捕まえるためにネコを飼っており、人々はそのネコに感謝していた。



#### (4) 【神秘説】

人々は猫肉を食べないが、これは理想主義的角度からも説明可能だ。

猫の目はとても特殊で、日中は瞳孔が縦一列になり、夜には瞳孔が円形に広がるが、特に夜になると暗闇で光り、とても怖そうな目に映ることがある。

実際、猫の目の大きさは外光の強さに影響されるのだ。

日中、猫は光が強すぎると目を痛めるのを防ぐために瞳孔を狭めるが、夜は光が弱すぎるため、はっきり見るために瞳孔を大きくする必要がある。なぜ暗闇で目が光るのかというと、目に独自の発光機能があるのではなく、網膜に反射板のようなものがあるからなのだ。



しかし、封建的で迷信深い古代人たちは、この科学原理を理解しておらず、猫には陰陽を見抜き、神秘性があるからだと考え、あえて猫肉を食べようとする人はいなかった。

神秘的な眼の伝説とは別に、『猫には九つの命がある』という説もあり、これはネコの「無類の武勳」の一つである『高いところから落ちても死なない』ことに由来するものだ。

ネコが（木の枝などから）落ちにくいのは、一に体重が軽いこと、二にネコの内耳は自然界でも有数のバランス感覚があり、たとえどのような姿勢で高所から落ちたとしても、最短時間で体の位置を判断し、手足から先に着地するように調整できることにある。

同様に、古代人はその背後にある原理を理解しておらず、猫には九つの命があるからだ信じ、あえて怒らすことはなかった。

さらに、一部の統治階級はネコを悪者扱いしており、これもまた人々が猫肉を食べることを避けた理由の一つとなった。



最も有名な例は、武則天が蕭淑妃を追放した際のことで、蕭淑妃が死に臨む前に「私がネコに生まれ変わり、武則天がネズミに生まれ変わるのを待ち、その喉元に噛みついてやる」と呪った話だ。

蕭淑妃の呪詛は、後に武則天の夢の中で現実となり、目覚めた武媚娘（武則天のことです）は冷や汗をかいて恐怖を感じ、それ以来宮殿内でネコを飼うことが禁止された。

以上をまとめると、古来より猫肉を食べるという伝統はなく、猫肉の専門的調理法もないままに代々受け継がれてきたもので、猫肉に対する興味が失われたことが分かる。

現代科学の観点から猫食の隠れリスクを分析

飼い猫や野良猫は一般的に残飯やネズミ、小魚、エビなどを食べるが、トキソプラズマや肺臓ジストマ



などの高温では死なぬ寄生虫への感染可能性がある。

ネズミの死骸などの腐乱食物をよく食べるネコもいるが、これらの食べ物には多くの病原菌が含まれており、出血熱や猫ひっかき熱、狂犬病などを引き起こす可能性があるのだ。

野良猫の場合、生まれてから捕獲されるまで何の予防接種も受けていないため、寄生虫や細菌、病原菌を媒介する状況はさらに深刻なものとなる。



さらに、ある研究により、ネコがヒトにエイズを引き起こすヒト免疫不全ウイルス (HIV) によく似たネコ免疫不全ウイルス (FIV) に感染することがありうると発表されたが、現時点では FIV がヒトに感染した例はまだない。

しかし、ヒト免疫不全ウイルスのように、何事にも絶対にといいものはない。このウイルスはもともとオランウータン(「ん?アフリカでオランウータン?チンパンジーでは」と思いつつ調べてみたところ「猩々」という中国語はオランウータンを指し、チンパンジーな

ら「黒猩々」といふべきと判明。故にこれは筆者による誤記かと推量)のウイルスだったが、アフリカ人がオチンパンジーを食べていたことから、その後ヒトに感染させた。今のところ、医学界はそれを完全に治療する方法を持ちえてはいない。

人類は自然の前ではとても小さな存在であり、自然の生き物たちと共生すべきだ。一時的な好奇心を満たすために食べてはいけないものを食べてはならない、さもなければ自然の報復を受けるだけになる。

<https://www.163.com/dy/article/HGO1SK230552XK8U.html>

## Why don't Chinese people eat cat meat? Li Shizhen has told us the answer, and the ancients have already tasted it

NetEase News    www.163.com    2022-09-08    10:17:57    Source: Who's Who in Human History

As we all know, China is a "big foodie country". No matter what flies in the sky, runs on the ground, or swims in the water, it can make delicious food for you, however, Chinese people don't seem to be very interested only in cat meat.

There is a dish in Guangdong called "Dragon-Tiger Fighting (Chinese boxer)", which uses snakes and cats as the main ingredients to make soup, however, it is only popular in some areas of Guangdong. I believe that most people have never eaten cat meat. Why is this?

<< Picture 1 >>

The history of Chinese "play with fluffy cats"

According to research, the earliest time cats were domesticated was about 3,600 years ago. At that time, the ancient Egyptians stored a large amount of grain, which attracted many rodents (rats) to eat. The rodents in turn attracted wild cats to prey on them, so people lived with these wild cats from then on.

During the Roman Empire, cargo ships sailed between India and Egypt, and the Egyptian cats that "guarded" the food on the ships went to India. Therefore, some people believe that Chinese cats were introduced to China through the Silk Road during the Western Han Dynasty. However, in recent years, archaeological teams have also discovered that before the Western Han Dynasty, suspected remains of domestic cats were unearthed in China.

However, it does not make much sense to study the specific origin time of cats in China. Why not take a look at when our ancestors fell in love with "playing with fluffy cats"?

<< Picture 2 >>

To be precise, it was the Song Dynasty, when it could be said that "all people are self-satisfied with cats".

"Old Wulin Stories" from the Southern Song Dynasty mentioned that there were cat houses, cat food sellers, and cat vendors in the Song Dynasty market. There were even foster care services specifically for cats.

The great poet Lu You often "shows off his cats" by writing poems. He once wrote three poems "Giving Cats". For example, there is a line in the poem "Drunken with mint all the time, occupying the 黠滙 every night", which means: "My cat sniffs mint all the time and likes to take over my blanket."

In the customs of the Song Dynasty, people regarded taking a cat home as a solemn and ceremonial matter.

Just like getting married, when you welcome a cat, you must give a betrothal gift, but you don't need to give jewelry or treasure, you should also give some salt to the cat's previous owner, or string small fish into strings and give them to the female cat who gave birth to cubs. Then, choose an auspicious "cat-accepting day", send a letter of engagement to the cat, offer a betrothal gift, and establish a cat-accepting deed as proof.

By the Ming Dynasty, cat-raising was a fanaticism. Cats became royal favorites and lived in special royal cat rooms.

It is said that the first cats kept in the palace were used to catch mice. After all, there was no rat poison at that time, and the documents and items stored in the palace were often bitten beyond recognition by mice, therefore, a large number of cats were "recruited" from the private sector to "guard" the Forbidden City.

Soon, the concubines, princesses, and even the emperor fell in love with these cute little guys.

By the time Jiajing, the eleventh emperor of the Ming Dynasty, he became obsessed with cats. He set up a special institution for raising cats in the palace and named it "Cat Room". He also conferred official titles on these cats and sent special personnel to serve them.

After the death of a lion cat named Meilu, Emperor Jiajing built a golden coffin for it and ordered civil servants to write a memorial to his beloved cat.

There was a civil servant named Yuan Wei who wrote the four words "turn a lion into a dragon" in his memorial text, after hearing this, Jiajing praised him repeatedly, and Long Yan was delighted. He immediately gave him a "promotion and a salary increase" and ordered someone to carve "Lion into Dragon" on the monument and place it at the place where the cat was buried.

<< Picture 3 >>

In the Qing Dynasty, the craze for raising cats continued unabated.

Zhang Zhidong, a famous minister of the Qing Dynasty, was very fond of raising cats. He kept dozens of cats at home, and he always fed them by himself, and he would not let others interfere if they wanted to.

Zhang Zhidong's cousin once said though Zhang Zhidong's cats were so pampered and proud that they often pooped and peed in the study, but as Zhang Zhidong didn't feel dirty, he wiped away the feces and urine with his handkerchief. He also told the people around him that the cats were ignorant and they couldn't be blamed.

Emperor Qianlong also raised more than a dozen royal cats during his 60-year reign.

In 1744, the Italian envoy presented Qianlong with a serval cat that looked very much like a cheetah. Qianlong was particularly fond of this serval cat. In order to make it easier to feed the cat water, he ordered a bowl made of red sandalwood, and also used a celadon lotus-style warming bowl to feed it.

<< Picture 4 >>

Why don't Chinese people like to eat cat meat?

(1) [Cats have a higher status among animals]

Through the above description, it is not difficult to find that as early as ancient times, everyone from ordinary people to high-ranking officials were already the "cat slaves" and "shit shovelers" of cats. Therefore, this can also explain to some extent why Chinese people do not like to eat cat meat since ancient times.

Just imagine, for example, during the Jiajing reign, the emperor himself loved cats so crazily. If the people were keen on eating cat meat, then the emperor would be furious.

On the other hand, the ancients emphasized courtesy and reciprocity and believed that "a nobleman in ancient times must repay the favor." In their view, after receiving help from others, you must repay twice as much. And this kind of relationship also exists in getting along with animals.

<<Picture 5>>

Cats can not only catch mice in the fields and homes, but also bring companionship and warmth to people. Therefore, gentlemen who understand etiquette treat cats with courtesy, let alone make them their own meals.

## (2) [Records in the Compendium of Materia Medica]

Cats are so popular in China. Didn't anyone eat them in ancient times?

There really is.

The famous "medicine sage" Li Shizhen wrote in his book "Compendium of Materia Medica": "However, civet meat is edible, while cat meat is not good and is not used in food, so it is rarely used."

I don't know whether Li Shizhen tasted it himself or was told by others. In short, in his opinion, cat meat is too unpalatable and not suitable as a dish, so few people eat cat meat.

<<Picture 6>>

## (3) [Plague crisis]

From ancient times to now, China has been a major agricultural country. Especially in ancient times, food was a top priority, whether it was people's lives or armies fighting wars, and places where food was stored could easily become a breeding ground for rats that loved to steal grains.

An important reason why cats were favored in ancient times was because of their superb mouse-catching skills. For cats, mice are both food and playing toys.

Therefore, if people take cat meat as their three meals a day, it will definitely lead to the disaster of rat infestation. The most obvious example is the Europeans of the past.

Compared with China, ancient Europeans had a much rougher attitude towards cats, because cats were the incarnation of the devil in their ideology, especially black cats, which were basically the same as devils.

<<Picture 7>>

For example, at the coronation ceremony of Elizabeth I, the then Queen of England ordered more than a thousand cats to be thrown into the fire as a sacrifice to heaven.

In addition to the UK, French people are also happy to abuse cats. Before Louis XIV came to the throne, there was a festival in France called St. John's Day. Every year on this festival, a grand ceremony is held in the Place de Ville in Paris. People hang dozens of cats on the stake and then watch them being burned to death while dancing and celebrating.

<<Picture 8>>

Europeans did this, which directly led to the terrible Black Death, because the Black Death was spread by rats. If you think about it, you will know that with so many cats being burned to death, rats must be living freely and lawlessly on the European continent.

But we ancients were much smarter. It was mentioned above that "the gentlemen of ancient times must repay what they have done to them", the second half of the sentence is actually "Welcome cats to eat voles." In other words, people at this time kept cats to catch mice that stole crops, and people were full of gratitude to these cats.

<<Picture 8>>

## (4) [Psychical theory]

People don't eat cat meat, which can also be explained from an idealist perspective.

Cats' eyes are very special. During the day, the pupils form a vertical line, and at night they enlarge into a circle. Especially at night, the cat's eyes will shine in the dark, and sometimes they look really scary.

In fact, the size of a cat's eyes is affected by the intensity of external light.

During the day, cats narrow their pupils to prevent too much light from hurting their eyes. At night, because the light is too weak, cats have to enlarge their pupils to see objects clearly. As for why their eyes glow in the dark, it's not that their eyes have their own light-emitting function, but that there is something like a reflector on their retina.

However, the feudal and superstitious ancients did not understand these scientific principles. They thought that this was because cats could see through yin and yang and be spiritual, so no one dared to eat cat meat.

<<Picture 9>>

Coexisting with the legend of psychic eyes, there is also the saying that cats have nine lives, which comes from a cat's "unparalleled martial arts" - it cannot die if it falls from a high place.

The reason why cats are so resistant to falling is because, 1. because of their lighter weight, 2. that cats' inner ears have one of the best balance abilities in nature, so no matter what posture they fall from a height in, they can judge their body position in the shortest possible time and make adjustments so that their limbs land first.

In the same way, the ancients did not understand the principle behind it. They believed that it was because cats have nine lives, so they did not dare to offend.

In addition, some ruling classes demonize cats, which is also one of the reasons why people avoid eating cat meat.

The most famous example occurred when Wu Zetian deposed Xiao Shufei. Before she died, Xiao Shufei cursed: "When I reincarnate as a cat, and she reincarnates as a mouse, I will bite her throat."

<<Picture 10>>

Concubine Xiao Shu's curse actually came true in Wu Zetian's dream, which frightened Wu Meiniang into a cold sweat when she woke up. From then on, it was forbidden to keep cats in the palace.

To sum up, it can be seen that there has been no tradition of eating cat meat since ancient times, and there is no cooking method specifically for cat meat. It has been passed down from generation to generation. By our generation, we have naturally lost interest in cat meat.

Analysis of the hidden dangers of eating cat meat from a modern scientific perspective

Domestic cats or stray cats generally eat leftovers, mice, small fish and shrimps, etc., so they may be infected with parasites such as *Toxoplasma gondii* and paragonimiasis that cannot be killed by high temperatures.

Some cats often eat rotten food such as dead mice. These foods contain many germs, so cats may also suffer from hemorrhagic fever, cat-scratch fever, rabies, etc.

If they are stray cats, most of them have not received any immunization measures from birth to being caught, and the situation in which they carry parasites, bacteria, and germs is even more serious.

<<Picture 11>>

Moreover, studies have shown that cats can also be infected with feline immunodeficiency virus (FIV), which is very similar to the human immunodeficiency virus (HIV) that causes AIDS, although there are currently no cases of FIV infecting humans.

But nothing is absolute, just like the human immunodeficiency virus, it was originally a virus in orangutans (Miyamoto's note: **As orangutans do not live in Africa, this should be chimpanzee**), but was later transmitted to humans because Africans ate **chimpanzee** meat. So far, the medical community has no way to completely cure it.

Human beings are very small in front of nature, so they should live in harmony with the creatures in nature. They should not eat things they shouldn't eat just to satisfy their temporary curiosity. Otherwise, they will only suffer the revenge of nature.



..... 以下是中国語原文 .....

## 中国人为何不吃猫肉？李时珍已经告诉我们答案，古人早就尝过了

网易新闻

www.163.com

2022-09-08

10:17:57 来源: 人间史名人录

众所周知，中国是一个“吃货大国”，甭管是天上飞的、地上跑的、水里游的，都能给你做成舌尖上的美食，但唯独猫肉，国人似乎对它不怎么感兴趣。

广东倒有道菜叫“龙虎斗”，以蛇、猫为主料煲汤，但它也仅仅是流行于广东部分地区，相信绝大多数人从来没吃过猫肉，这是为什么呢？

<<图 1>>

中国人的“撸猫”史

据考证，最早驯化猫的时间大约是在 3600 年前。那时的古埃及人把大量粮食储存起来，却吸引了许多啮齿动物（鼠类）来偷吃，而啮齿动物又吸引野猫来捕食它们，于是，人们从此与这些野猫一块生活。

在罗马帝国时期，货船在印度和埃及之间航行，那些在船上“守护”粮食的埃及猫便去到了印度，因此，有人认为中国的猫是西汉时期通过丝绸之路传入华夏大地的，但近几年来也有考古队发现，在西汉之前，中国就有疑似家猫的遗存出土。

不过，细究猫在中国的具体起源时间并无多大意义，不如来看看我们的祖先究竟是何时喜欢上“撸猫”的？

<<图 2>>

确切来说是宋朝，当时可谓“全民撸猫”。

南宋时期的《武林旧事》中就提到宋朝市场上有卖猫窝、卖猫粮的，还有卖猫的商贩，甚至出现了专门针对猫咪的寄养服务。

大诗人陆游就经常通过写诗来“晒猫”。他曾写过 3 首《赠猫》，比如诗中有一句“时时醉薄荷，夜夜占氍毹”，意思是说：“我家的猫时时刻刻都在吸薄荷，还总喜欢霸占我的毛毯。”

在宋代的习俗中，人们把接一只猫回家视为一件庄重且有仪式感的事情。

就像结婚一样，迎猫时必须下聘礼，倒不至于拿首饰财宝，但也要送给猫咪之前的饲主一些盐巴，或者将小鱼串成串，送给生下幼崽的母猫。随后，再挑一个吉利的“纳猫日”，给猫咪送去聘书，奉上聘礼，立下纳猫契为证。

而到了明朝，养猫程度堪称狂热。猫成了皇室的宠儿，它们住在专门的御猫房。

据说宫内最开始养的猫就是用来捉老鼠的，毕竟那时候还没老鼠药，宫里存放的文档和物品经常被老鼠咬得面目全非，于是大量的猫咪从民间被“征调”来“守卫”紫禁城。

很快，宫里的妃子、公主，甚至是皇帝也喜欢上了这些可爱的小家伙。

到了明朝第十一位皇帝嘉靖，他本人更是对猫达到了痴迷的程度。他在宫中专门设立了一个养猫的机构，取名“猫儿房”，他还给这些猫封官进爵，派专人伺候它们。

在一只叫做眉露的狮猫死后，嘉靖皇帝更是为它打造了一口金棺材，再命文官给自己的爱猫写祭文超度。

有一位叫袁炜的文官，在祭文中写道“化狮为龙”四个字，嘉靖听后连连称赞，龙颜大悦，立刻给他“升职加薪”，还命人将“化狮为龙”刻在纪念碑上，立在葬猫之处。

<<图 3>>

到了清代，养猫的热潮依旧不减。清朝名臣张之洞就极其喜欢养猫，他在家中养了几十只猫，从来都是自己喂养，别人想插手他都不让。

张之洞的堂兄曾在信里说，张之洞的这些猫恃宠而骄，经常在书房里拉屎撒尿，但张之洞不觉得污秽，径直取自

己的手帕把这些屎尿擦去，还对周围人说，这是猫无知，不能责怪它们。

乾隆皇帝在位 60 年，也养过十几只御猫。

1744 年，意大利使者给乾隆进献了一只看起来很像猎豹的薮猫，乾隆特别喜爱这只薮猫，为了方便给猫喂水，他命人配了一个紫檀做的碗，还用青瓷莲花式的温碗给它吃饭。

<<图 4>>

中国人为何不爱吃猫肉？

### (1)【猫在动物中较高的地位】

通过上面的描述，我们不难发现，原来早在古代，下至普通百姓，上至达官贵人，就已经是猫咪的“猫奴子”、“铲屎官”了，所以，这也能从某种程度上解释为何从古人开始，中国人就不爱吃猫肉。

试想一下，比如嘉靖统治年间，皇上本人对猫爱得如此疯狂，倘若民间却热衷于吃猫肉，那么皇上必然震怒。

另一方面，古人讲究礼尚往来，认为“古之君子，使之必报之”，在他们看来，得到别人的帮助后必须要加倍地报答，而这种关系，也同样存在于和动物的相处中。

<<图片 5>>

猫咪们不仅可以在田间和家宅捉老鼠，还能给人们带来陪伴和温暖，故而，懂礼数的君子们对猫皆以礼相待，更不要说将它们做成自己的盘中餐了。

### (2)【本草纲目记载】

猫在中国如此受欢迎，难道古代就没有人吃过吗？

还真有。

大名鼎鼎的“药圣”李时珍就在其著作《本草纲目》中写道：“然狸肉入食，猫肉不佳，亦不入食品，故用之者稀。”

也不知道是李时珍亲自尝过，还是别人告诉他的，总之在他看来，猫肉实在是太难吃了，不适合当作菜肴，所以吃猫肉的人很少。

<<图片 6>>

### (3)【鼠患危机】

从古到今，我国都是农业大国。尤其在古代，不论是百姓生活，还是军队打仗，粮食都是重中之重，而粮食储存的地方，很容易成为那些爱偷吃谷物的老鼠们大肆繁衍的温床。

猫在古代能够被着养的一个重要原因，就是因为它有高超的捕鼠本领。对猫咪们来说，这些老鼠既是它们的食物，也是它们的玩物。

所以，如果人们把猫肉作为自己的一日三餐，那么定会导致鼠患的灾难。最明显的例子就是以前的欧洲人。

与中国相比，古时候的欧洲人对待猫的态度就要粗暴得多，因为猫在他们的意识形态里就是魔鬼的化身，尤其黑猫，与恶魔基本无异。

<<图片 7>>

比如在伊丽莎白一世的加冕典礼上，当时的英国女王就下令将一千多只猫扔进火堆里，用来祭天。

除了英国外，法国民众也乐于虐猫。在路易十四即位之前，法国有一个节日叫圣约翰节。每年一到这个节日，巴黎市政广场就会举行盛大的典礼，人们会把几十只猫吊在火刑架上，然后一边看着它们被烧死，一边跳舞庆祝。

欧洲人这么做，最后直接导致了可怕的黑死病，因为黑死病就是以老鼠为载体传播的。想想也知道，那么多的猫被烧死了，老鼠们在欧洲大陆的日子肯定逍遥自在、无法无天了。

而我们古人就聪明多了。上面提到过“古之君子，使之必报之”，它的后半句其实是“迎猫，为其食田鼠也”，也就是说，此时的人们养猫就是为了抓捕那些偷吃庄稼的老鼠，并且人们对这些猫充满了感恩之情。

<<图片 8>>

#### (4)【通灵说】

人们不食猫肉，还能从唯心主义的角度解释。

猫的眼睛很特殊，白天的时候瞳孔成一条竖线，到了晚上又放大成了圆形，尤其晚上，猫咪的眼睛在黑夜中会发亮，有时看起来确实挺瘆人的。

实际上，猫的眼睛或大或小受外界光线强弱的影响。

白天的时候，为了避免有太多光线刺伤眼睛，猫咪才将瞳孔缩小，晚上的时候又因为光线太弱，所以要放大瞳孔看清物体。至于为何它们的眼在黑夜中发光，并不是它们的眼自带发光功能，而是在它们的视网膜上有一个类似反光板一样的东西。

但封建迷信的古人并不懂得上面这些科学道理，他们以为这是因为猫能够看透阴阳，能通灵性，因此也就没人敢吃猫肉了。

<<图片 9>>

与双眸通灵的传说并存的，还有猫有九命一说，这来源于猫的一项“绝世武功”——它从高处摔下去是死不了的。

猫之所以这么耐摔，一个是因为它们较轻的重量，另一个原因就是猫的内耳有着自然界中数一数二的平衡能力，所以不论是以何种姿势从高处掉落，它们都能在最短时间内判断身体位置，从而做出调整，使自己的四肢先着地。

同理，古人并不懂得其背后的原理，他们认为这是由于猫有九命，故而不敢得罪。

除此以外，一些统治阶级将猫妖魔化，也是导致人们忌食猫肉的原因之一。

最有名的例子就发生在武则天当年废萧淑妃的时候，萧淑妃在临死前破口大骂：“等我转世做了猫，她转世成了鼠，我一定咬断她的喉咙。”

<<图片 10>>

而萧淑妃的诅咒后来还真就在武则天的梦里实现了，这让武媚娘醒来后着实吓出一身冷汗，从此便禁止在宫中养猫。

综上所述，可见自古以来就没有吃猫肉的传统，也就没有专门针对猫肉的烹饪方法，一代代传承下来，到了我们这一代，自然对猫肉也就失去了兴趣。

现代科学角度分析吃猫肉的隐患

家猫或流浪猫，一般都以剩饭剩菜、老鼠、小鱼虾等作为食物，所以可能会感染弓形虫、肺吸虫这类高温都杀不死的寄生虫。

有些猫常吃死老鼠等腐烂食物，这些食物有很多病菌，因此猫还可能患有出血热、猫抓热、狂犬病等。

如果是流浪猫，大部分自出生到被抓，没有经过任何免疫措施，它们携带寄生虫、细菌、病菌的情况则更为严重。

<<图片 11>>

而且，有研究表明，猫还会感染猫免疫缺陷病毒（FIV），该病毒与导致艾滋病的人类免疫缺陷病毒（HIV）十分相似，虽然目前还没有FIV感染人的案例。

但凡事无绝对，就好比人类免疫缺陷病毒，它起初只是猩猩身上的病毒，后来由于非洲人吃猩猩肉而传给了人类，至今医学界都没有办法彻底治愈。

人类在大自然面前是很渺小的，所以应当与自然界里的生物和谐相处，不能为了满足一时的猎奇心理而去吃不该吃的东西，否则，只会遭来大自然的报复。



20230908D なぜ中国人は猫肉を食べないのだろうか？(網易新聞)